

1 修善寺温泉史跡・文学散歩

修善寺温泉は弘法大師が発見したと伝わる伊豆最古の温泉。歴史と自然に囲まれた温泉地は、源氏三代の悲劇の舞台となった所。桂川をはさんで温泉情緒たっぷり風の風情が残り、古くから多くの文人墨客が訪れ、沢山の名作を残している。岡本綺堂の「修善寺物語」もその一つである。修善寺駅から修善寺温泉駅行き、若しくは戸田行きのバスで7分、修善寺温泉駅下車。みやげ物店が並び温泉街を行くと日枝神社がある。境内には大きな夫婦杉や天然記念物のイチイガシ、源範頼が住んでいたという信功院跡がある。



▲独結の湯

隣が修善寺。寺の前を流れる桂川の中には「独結の湯」がある。その昔、冷たい川の水で病いの父親の体を洗う少年に心打たれた弘法大師が、手に持っていた仏具の独結杵で川の岩を砕き、温泉を湧出させて温泉療法を教えたと伝わる伊豆最古の温泉である。毎年4月21日には大師の霊前に献湯する湯汲み式が行われている。

福地山修善寺は平安初期、弘法大師の開基と伝わる名刹。宝物館「瑞宝蔵」には岡本綺堂の名作「修善寺物語」のヒントになった頼家の面や政子署名の放光般若波羅密多經、頼家の陣旗、範頼の馬具などが展示されているほか天井には川端龍子の「玉取龍」が描かれている。鐘楼脇の竹林から寺の裏手に回り、静かな住宅街を範頼の墓へと向かう。源範頼は、兄頼朝の誤解を受けて修善寺に幽閉され、後に梶原景時に攻められ、信功院で自害している。



▲源範頼の墓

墓は立派な五輪の塔で温泉場外れの高台にひっそりと佇んでいる。畑の中を下って広い舗装道を横断し、「風の径」を行くと赤蛙公園。島木健作の短編「赤蛙」の取材地で梅や杉の木立に囲まれた池には蛙の像がある。

川沿いに竹垣のある小道を行くと「ギャラリーしゅぜんじ回廊」がある。回廊式展示場で修善寺の歳時記や花、山野草、日本画などを写真を使って展示している。特に春の桜名所秋の紅葉名所の写真展は好評だ。赤い桂橋を渡ると竹林の小径に入る。真ん中に直径4.5mの竹製の円形ベンチがあり、ここに寝そべって空を見上げるとリフレッシュできる。歩道の境界には桂垣や光悦寺垣、建仁寺垣などが使われている。



▲竹林の小径

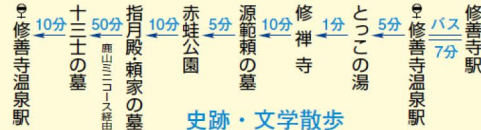
指月殿は一切経堂とも呼ばれ政子がわが子・頼家の冥福を祈って「宋版大藏経」と共に修善寺に寄進したもので、禅宗式の珍しい形の丈六釈迦如来座像が祀られている。

修善寺梅林は2月に紅白3000本の梅が咲く花の名所。遊歩道沿いには修善寺ゆかりの中村吉右衛門、高浜虚子、尾崎紅葉、市川左団次らの句碑と「修善寺物語碑」がある。散歩道を温泉場の下り源範頼の墓へと結んで歩いてほしい。

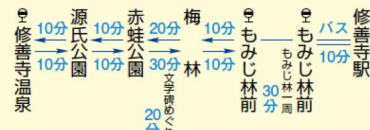
頼家の墓から鹿山を散策するコースを登る。桂谷八十八ヶ所巡拝コースの44番から37番までの8ヶ所を巡るミニコースである。おしゃぶり婆さんの石仏や源義経の像、吉田絃二郎・明枝夫妻の墓、明枝の句碑などがある。下ってみゆき橋を渡って左に行けば起点の修善寺温泉駅だ。また、温泉場から修善寺梅林までの山道は花と文学の散歩道となっているので併せて歩いてみるのもいい。梅園まではちょっときつい上りなので、もみじ林までバスで行き梅園を抜けて温泉場の下り方が楽である。

源氏三代の悲劇の舞台となった伊豆の名門・古湯に文人の足跡を訪ねる

コースタイム(参考) 所要時間/約1時間30分



コースタイム(参考) 所要時間/約1時間30分



『伊豆修善寺文学と花のみち』は、平成27年、「文化の道100選」に選ばれました。



▲修善寺梅林